

7月18日(金) 9:30～11:30 C会場

10. 尊厳と安全をどう守るか～介護・医療現場における転倒・転落と身体拘束～

座長：杉山良子(RoomT2 転倒転落研究会)

島村弘宗(国立病院機構仙台医療センター
医療安全管理室長)

- (1) 私たちは何を守りたいのかー患者家族を含めたみんなの力で取り組む身体拘束ゼロ化へー
笠松 奈津子(手稲溪仁会病院TQMセンター
医療安全管理室)
- (2) 慢性期病院における転倒転落と身体拘束 抑制に頼らない看護
梅津光香(定山溪病院看護部長)
- (3) 精神科看護(領域)における行動制限最小化の取り組み
吉川隆博(東海大学医学部看護学科教授)
- (4) 医療機関等における転倒・転落事故の法的責任
伊藤佑輔(伊藤佑輔法律事務所)

7月19日(土) 14:10～16:10 K会場

11. 在宅医療における地域連携・薬薬連携

座長：赤瀬朋秀(日本経済大学大学院経営学研究科教授)

西村康人(国立病院機構仙台医療センター
薬剤部長)

- (1) 地域医療におけるアライアンスの実践にむけて
赤瀬朋秀(日本経済大学大学院経営学研究科教授)
- (2) 地域医療の持続可能性を目指した在宅専門薬局の役割
片岡雅人((株)HASC事業団事業統括部長)
- (3) 地域における薬局と福祉との連携
鈴木 すみれ(株式会社なの花東北)
- (4) 地域における病院薬剤師の役割～地域連携を通して私たちが出来ること～
大内 友季江(光ヶ丘スペルマン病院薬剤科)
- (5) 地域医療における役割～在支診薬剤師の立場から～
南郷大輔(医療法人創福会ふくろうクリニック
等々力薬剤部)

7月19日(土) 8:00～10:00 J会場

12. 特定行為研修修了者の活動を推進するためには

座長：澤田真樹(国立病院機構本部医療部サービス・安全課)

安藤肇史(国立病院機構宮城病院院長)

- (1) 特定行為研修修了者の活動推進に向けた取り組みについて

佐藤由紀(日本海総合病院副院長兼看護部長)

- (2) 病棟常駐型チーム医療のススメと特定行為研修修了者の活躍

川井和哉(近森病院院長)

- (3) 特定行為研修修了者としての活動と今後の課題

佐久間 徳子(地域医療機能推進機構仙台病院)

- (4) 在宅医療における特定看護師の活動の重要性和今後の展望

新井 茂登子(訪問看護ステーションあらい)

7月19日(土) 10:10～12:10 J会場

13. 人生の最終段階における意思決定支援～医療・ケアのあり方～

座長：新倉 仁(国立病院機構仙台医療センター
副院長)

寺島敦子(仙台市立病院副看護部長)

- (1) がん患者のためのアドバンス・ケア・プランニング～年代や身寄りの無い人への配慮～

上村恵一(斗南病院精神科長)

- (2) それぞれのACPー超急性期の環境の中でー

齋藤 美香子(国立病院機構仙台医療センター
看護師)

- (3) 病院における認知症高齢者の意思決定支援の現状と認知症看護認定看護師が感じる課題

西川菜央(国立病院機構仙台西多賀病院看護師)

- (4) 地域とつなぐ意思決定ー介護支援専門員の立場からー

大城京子((株)Old-Rookie居宅介護支援事業所・
快護相談所和び咲び副所長)

7月19日(土) 10:10～12:10 C会場

14. 新興再興感染症に対する備え

座長：西村秀一(国立病院機構仙台医療センター
ウイルスセンター長)

- (1) 次のパンデミックへの病院の備え

押谷 仁(前東北大学大学院教授)

- (2) ダニ媒介性ウイルス性出血熱、重症熱性血小板減少症候群の発見と治療・予防法開発

西條政幸(札幌市保健福祉局医務・保健衛生担当
局長)

- (3) 昆虫媒介感染症とその対策～ウイルス感染症を中心に～

高崎智彦(前神奈川県衛生研究所長・BML顧問
前国立感染症研究所室長)